

Book Review

月刊「デンタルハイジーン」別冊 流れでわかる！ インプラントの アシスタントワーク・メンテナンス

小宮山彌太郎 監修/山口千緒里 執筆



Reviewer

平塚智裕 Tomohiro Hiratsuka
(東京都・Bc デンタルオフィス)

AB判, 128頁
オールカラー
定価(本体 3,300円+税)
医歯薬出版刊



この本の魅力

この本は、現代のオッセオインテグレーション型インプラントを開発した故ブローネマルク先生にスウェーデンで直接学び、それを日本に伝えるために小宮山彌太郎先生が開設したブローネマルク・オッセオインテグレーション・センターで、長きにわたり勤務している歯科衛生士の山口千緒里先生より執筆された。

2020年で30周年を迎えたブローネマルク・オッセオインテグレーション・センターは、最初から現在のスタイルを確立できていたわけではない。インプラント開発時の膨大な研究から出された本質を軸として、世界中から多方面にわたる多くの研究や見解が出されたものから、必要なことを取り入れるべく試行錯誤を重ねてきた。

この長い年月をかけて培われた知識や技術、経験を、アシスタントの目線でとてもわかりやすくまとめた貴重な本である。

インプラント治療

インプラント治療は、歯を失ったところに安定した咀嚼装置を作ることが

でき、患者のQOLを大きく改善できる治療法である。

しかし、歯科用インプラントは人工物であるインプラント体が生体内に入った部分と、生体外に露出した部分とが混在する状態である。口腔内は多数の微生物が存在し、さらに咬合力が加わり続ける劣悪な環境であるため、そのなかで安定して機能させつづけるためには、知識に加えてあらゆる配慮や理解が求められる。

さらにインプラント治療は長い間口腔内に存在しつづける治療法でもある。これは良い点のほうが大きい、不本意な治療結果であったとしても、一度骨結合したインプラントを改善することはさまざまな点から難しく、不本意な結果のまま長く口腔内に残存する可能性もある。

良好な結果を長く継続させるためには、手術の前段階からメンテナンスに至るまで、一つ一つにポイントがあり、術者だけでなく、アシスタントなど歯科医療従事者がインプラント治療の仕組みを理解したうえで、チーム医療として取り組むことが大切である。

まとめ

筆者は10年あまり、ブローネマルク・オッセオインテグレーション・センターに関わらせていただいているが、当施設のスタッフ全員の飽くなき探究心や医療に対する姿勢は学ぶところが多い。

医療は科学であり、科学とは先人たちの積み上げてきたことを踏まえようとして、さらにそれを検証して、次につなげていく学問である。先人の知識を得ずして、最初から始めては同じ過ちを繰り返すことになる。

アシスタントワークを中心として、インプラントの仕組みや機材の準備や特性、洗浄滅菌、術前、術中、術後、さらにはメンテナンスに至るまで、細かなポイントやコツを、歯科衛生士、歯科助手のみならず、歯科医療従事者にとって、わかりやすく知ることができる1冊となっている。

この本から受け取れる知恵を利用して、患者に喜ばれるインプラント治療を、医療チーム全員で体感していただきたい。